

---

# BNF物語

松下勇一

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

BNF物語

### 【コード】

N6505L

### 【作者名】

松下勇一

### 【あらすじ】

作者が話に出てきて話にならない話

砂浜に吸血鬼、海水の塩分濃度は30〜35パーミル。

「我輩は、健康のために走っているのである」と、誰かが言った。

その誰かを誰とか聞いてはいけない。

文字通りの意味。

砂浜に吸血鬼が居て、塩分濃度30〜35パーミルが存在していて、健康の為に走っている人が居るのだ。

「世界観の意味が判らない」とか言っではいけない。

だって私はその世界の住人であり暮らしている。

朝起きて「おはよう」「寝る前に「おやすみ」と言っし、ごく普通の人間なのだ。

好きな食べ物はカレーライスで・・・

作者である私は、この話題をどこで折って良いのか判らない。

そもそも今日の私は、こんな無意味なタイプをしたかった訳じゃない。訳じゃない。

洗濯物とか仕事とか色々しないといけないのだ。

それなのに、この意味不明な2行が私の脳の好奇心を捕らえて離さない。

砂浜に吸血鬼、海水の塩分濃度は30〜35パーミル。

「我輩は、健康のために走っているのである」

私は知りたい。

この二行を書いた理由と、この2行に囚われた私がこの先どうなるかを・・・

現在、PM9:00くらい

AM11:00くらいからタイプに囚われ、はや10時間。

その間にした事といえば、タイプ以外にはパン粉を食うだけ。

飯を食うといっても私は、売れない作家で貧乏人だから、まともなものを食べる訳じゃない。

金が無いので冷蔵庫の余り物を食すのだ

もちろん、スーパーに行つて買い物をする位の金があれば良いのだが、なにぶん私は対人恐怖症。

外出を極端に嫌うのである。

そんなこんなで10時間という不毛な時間をタイプに費やしてしまった私は、ここにきて自己嫌悪に陥る。

いわゆる、ひきこもり兼、ニートである事を自覚せざる負えなくなる。

対人恐怖症〓ひきこもり 　だから、説明するまでもないのだろうか・

なんといつても親は私に甘い。

大学を卒業してからも単身、仕送りを貰い一人暮らしをさせてもらっている。

その楽な支えがあるからこそ、私は家に引きこもり逃げるのだろうか。

就職ができなかったといえ、それで自信喪失し引きこもるというアリガチ図式が成立してしまった私。  
だが夢がある

それは、小説家になること。

夢の動機は簡単。

社会から逃げたという負けの事実を認めずプライドが捨てられないので、対人恐怖症を肯定し人間関係なしで独り立ちしたいのだ。

プライドが高いというのは実に厄介だ。

対人恐怖症を克服して社会と関わる事〓自分のこれまで歩んできた人生を否定する

とか、考えてしまっている。

極端に思うかもしれないが、世の中には、対人関係なしで収入を得ている人が居る。

株式トレーダーや、サイトを運営したり広告収入を得たり、小説家になったりと、もはや、対人恐怖症があるうがなかるうが、頑張ればやっていけないという事も無いという現実がそこにあり、どんな職業よりも魅力的に思えるポテンシャルを兼ね備えた世界が存在しているのだ。

私は。そんな夢の可能性に魅入られた者であり、だからこそ、ニートや対人恐怖を肯定している。

肯定するといふぐらいだから、大きな信念が無くてはできない。

周囲の人間に「働け！」と、言われても「嫌！」と言いつつ断固拒否する事ができないといけない。

だが、私には断固それができない。

なぜなら、結果が出ていないのだ。

努力に努力を重ねてありとあらゆる手を尽くした。

しかし、その努力とは裏腹に自給100円を超える事もできないので、形無しなのだ。

努力しまつたつたと、誰にアピールしようが、それは結果が無いと誰も認めない。

二トで時給100円が「頑張ってる」「俺を認めろ」とホザいても愚痴にしか聞こえない。

だから、私は、自分が「がんばった！」とは誰にも言えない。

誰も自分を褒めてくれる人も、求めてくれる人も居ず、孤独とストレスに耐えられなくなったからこそ、こうしてモニター君を目の前に「がんばったんだよ！」と主張しているのだ。

こんな痛い私を知ってか知らずか、親は気を使う。

二ト、ひきこもり、対人恐怖症はネットで調べれば3点セットだと直ぐ判るし、親は恐らく知っているだろう。

私を大事に思い余計なプレッシャーを与えたくないという気持ちも判る。

だからこそ、毎月15日にお金が振り込まれて来る。

そして親不孝者の私は自分は嫌いで、だからこそ結果が欲しくて、頑張るのだけど、それをすればするほど努力の結果が欲しくなる。どれくらいの結果を望むかという自給100万円だ。

突っ込みどころは色々あり、私が馬鹿なのも判る。

読んでも読者に、そう指摘されるのも理解している。

けれど、心理的にそれくらい求めたいという欲があるのだから仕方が無い。

努力をしてしまったら、見返りを期待するというのが人間の性であり、誰も私の変質性を責める資格等無いのだ。

貴方だって、私の苦勞の記憶にアクセスしたら、きっと同じ様に思うに間違いないと思う。

「時給1000円を1000万に！」

大半の人は、そういわれても、いまいち納得行かないと思うのであるが、世の中にはニート、引きこもりという立場で時給2000万円を手にする者が存在している。

その名をBNFといい、インターネットの株式投資で生計を立てている。

総資産は2010年時点で約300億円。

彼は、2000年から100万円を元手に1年で1億にし、2年で3億、3年目10億、5年目で50億、

と、とんとか拍子に成り上がったという。テレビに出て、そのナヨナヨぶりをアピールし、いわば一般目線的に「ふざけんな！」という立場の者である。

こうなると誰しもが「俺にもできるよ！」って成るわけで、勉強して頑張る。

そうだ！ 私自身も勉強して頑張った。

だが、結果が出ない。だから貧乏。しかも親の仕送りの金を失い。罪悪感と自己嫌悪。

才能が無いのだから、すっぱり止めろと思うだろうが、人は悔しさをバネに更なる勉強と努力をしようという現象があるのも事実。その現象に巻き込まれた私は、何も成果が出ない悔しさをバネに努力を繰り返したのだった・・・

それで手に入れた成果が、病気だった。

ストレスの余りに胃に穴が開く。

ストレスの心境を例えると、北朝鮮で強制労働されつつ、24時間銃をつきつけられ、「ため息は吐いたら殺す」と脅されている様な感じ。

今、思うとぞっとする。

だからこそか・・・私は、この世の中の競争社会やら原理やら、物凄い恨みを持っている。

不毛な人生を歩まされた事に怒りを感じ、復讐心を燃やす。

だが、どうにもならんのも事実。

だから、時給2000万男のBNFを誘拐事件にでも巻きませて、ストレスを発散する事にしようと思う。

## BNF誘拐 第一話

BNFは、いつもの様にコンビニに出かける。

お金が300億あっても、お金を増やすにはお金が必要という精神から、質素節約してしまう彼は、今日もレトルトで済みます。



どんべいを購入して何時もの通りを抜けて自宅に帰る。自宅までの道のりは大体1kmくらいだろうか、彼はその途中で誘拐された。

彼はテレビに出て顔出してたから、面がばれている。

300億も持ってたなら、そりゃあ付け狙われて当然と言える。

なのになぜ、警戒しないのか不思議に思うだろう。

判らん。

資産50億の段階でテレビに出て、そんな生活スタイルが披露されてるくらいだから、当然、街中を平然と歩いている可能性もある。

だからこそ狙われた。

BNFを奪取した犯人達の正体は不明！

作者もまだ考えてない。

暴力団という提案も、右脳から聞こえて来るが思案中。

暴力団も最近は資金集めに株式投資をしている。

BNFの様にパソコンの前でチャチャトレードをしている風景がテレビの取材で明らかになった。

信用しがたいので嘘かもしれないが、嘘としたら話終わるので、嘘とはしません。

そもそもBNFの存在自体も疑わしい。

今のご時勢、情報の捏造は簡単だし、詐欺もハイテク化して巧妙化している。

BNFという存在は人々に株式投資という大きな夢を与え、沢山の金が市場に流れた。

証券会社は手数料で潤い。国は税込で潤う。

ちょっと考えれば嘘の可能性の方が目茶高いのも事実。

なのに嘘だと決め付けないのは、嘘を消す情報が蔓延しているから

で、だからこそ私も情報に振り回された。  
巷には、頭の良い人でも騙されてしまう様な理論やら本やらが存在している。

恐らくIQ150でも虜になる人は居るだろう。

「天才数学者、株に嵌る」というタイトル本も存在しているし、知能に自信のある心理学者、経済学者、数学者が、この株投資の世界に嵌るも良くある話である。

さて、大きく話が逸れてしまったが、BNFの誘拐に話を戻そうと思っ。

BNF誘拐 第二話

BNFは、揺られている。

目隠しをされ手と足に手錠を掛けられ、乗り物に乗っている。  
その乗り物は船。

ぼーん

汽笛が聞こえる。

どうやら、この船の汽笛の音では無く、遠くの巨大船の汽笛の音だろう。

大して大きくないBNFの載せた船は、波に揺られながら、どこかへ向かう。

船内には、BNF以外に3人の男が居る。

1人が見回り、一人が運転、一人がBNFを見張る約なのだろうか。

彼は命乞いするも、言語は殆ど通じないのか。無視されているのか。全く取り合ってくれない。

狭い船内の中で状を掛けられて芋虫の様に転がるしかできないのだ

った・・・

「スミニダ」

「スムニダ」

時折、男たちから、聞こえるこの4文字は、判る人には判るだろう。そう。朝鮮人だ。

ここに連れてこられた者たちの末路はご存知の様に悲惨なものだ。奴隷になるか、奴隷になるか、奴隷になるだけである。

BNFも当然の様に働かされるのである。

「デイトレードで毎年100億円以上稼げスミニダ」

翻訳したらこんな感じで命令されたんだと思う。

なるほど。朝鮮人も考えたな畜生！

資産300億を盗もうとかチンケな規模じゃなくて、働かせて得ようという訳か・・・

ざまあみろだ。

と妄想していたら、それが現実起こっちゃいました。という話になります。めでたしめでたし。

(後書き)

誰かに誘拐される前に私が誘拐したい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6505/>

---

BNF物語

2010年10月15日18時08分発行